

# 中国留学

情報文化学科 2年 渡辺郁実

9月から1月の約4か月間、中国の北京師範大学に留学してきました。私が留学へ行こうと決めた理由は、隣の国なのに中国について何も知らないと気付いたからです。以前は中国に対してあまりいいイメージは持っていなくて、日本とは政治の体制も違うので何か壁のようなものを感じていました。しかし大学に入って講義などいろいろな話を聞くうちに、中国に対するイメージは変わっていき、実際の中国はどのようなところなのか、中国人はそこでどのような生活をしているのかを知りたいと思うようになりました。また、学校とアルバイトの繰り返しの、変化のない生活から離れたかったのも留学を決めた理由の一つです。このまま日本にいてもこの現状を嫌だと思いつつもただらと過ごしてしまうと思ったので、思い切って別の環境に飛び込んでみようと思われ留学を決めました。そうして行った留学でしたが、終わってみると、たくさんのことを学び、経験することができ、とても意味のある、忘れられない4か月となりました。

留學生活の中で学んだことはたくさんありますが、もちろん言語もその一つです。始めの頃は相手の話していることがほとんどわからずに愛想笑いで曖昧に受け流していたり、自分は話しているつもりでも相手には伝わっていなかったりして、中国語を使うことが嫌になったこともありました。言いたいことがあっても中国語が出てこなくてもどかしい思いを何度も経験しました。しかしそのようなことがあるたびに、次はできるようにしておこうという努力はしていました。そうして中国で生活しているうちに、気が付いたら街中の看板や標識が読めるようになっていたり、すれ違った人の会話が聞き取れたりするようになっていき、自分の語学の上達を感じるようになりました。

留學の始めの頃は4か月は長いと思っていました、終わってみるとあっという間の4か月でした。中国での生活の中でたくさんのことを学び、経験することができ、それはどれも日本には知ることができなかったことでした。留學に行く前から、報道されていることがすべてではないと大学の講義などでも聞いていましたが、本当に、報道で見ていた中国のイメージと実際に見た中国は違うものでした。報道されていることはもちろん事実かもしれませんが、それだけで世界を作るべきではないということを強く思いました。また、いろいろな中国人と関わってみて、今は日中関係は良くないと言われていますが、政治上の国と国との問題は私たちの交流には何の関係もないということを身をもって学びました。彼らは私にとっても友好的に接してくださり、そんな方々のおかげで私は楽しい留學生活を送ることができました。